

## 連載



前回(2025年8月18日号掲載)の「ファンド市場ハイライト～外国株式ファンドの資金流入減速とトレンド変化」では、国内投資信託市場において、米国株ファンドの資金流入が急減速する一方、欧州株やインド株に資金シフトの兆しが見られることを取り上げました。今回は、海外の動向を見る上で、世界の上場投資信託(ETF)の資金フローを確認していきたいとします。なお、投信評価機関モーニングスターのETFデータベースにおいて、株式ETFのデータは8月末時点で12.7兆ドルとなっており、およそETF市場全体のデータをカバーしていると考えられます。ETFはリアルタイムで取引できる利便性からその資金フローは相場動向の影響を受けやすく、短期的な資金流入も反映する特性があります。

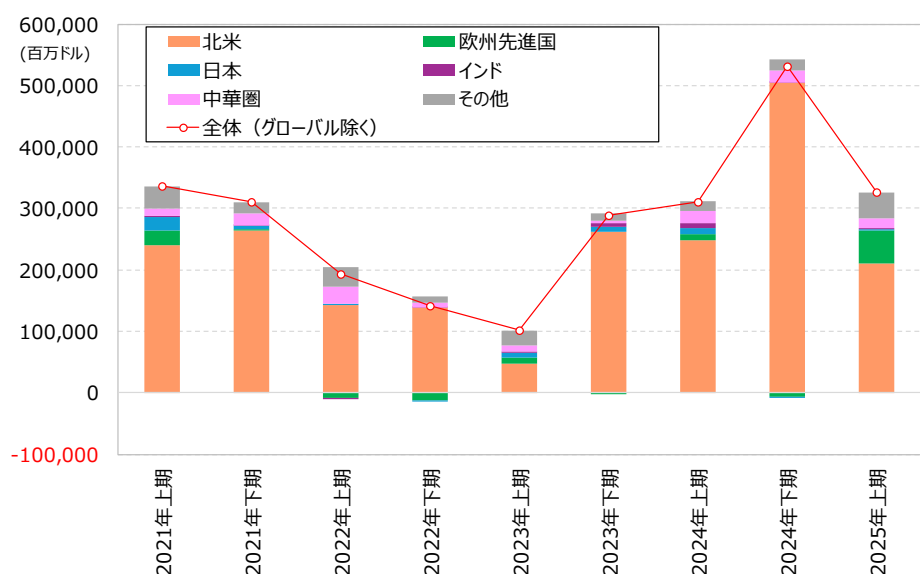
そこで、ある程度トレンドを見やすい形にするため、図表は21年1月～25年6月の期間における半年ごとの国・地域別の資金流入を示しています。投資家の地域的な選好を確認するため、グローバル型のETFは除いており、国・地域ごとに資金フローを集計しています。これを見ると、22年の世界的な株式相場下落を受けて資金フローが低迷する一方、23年下期から資金流入が回復し、24年下期にピークとなっていることが分かります。25年に入ってから4月初旬までトランプ米大統領の政策を巡る不透明感などから株式相場は下落しており、それに合わせて25年上期の資金流入額も減速しています。

24年下期にETFの資

金フローはピークに達していますが、国・地域別に見ると北米型(ほぼ米国型と言えます)に資金流入が集中していました。一方で、25年上期の資金フローを見ると、全体の資金流入額が減速する中で欧州先進国型のETFに高水準の資金流入が見られています。日本の投信資金フローでも欧州株に資金流入の兆しは見られているものの、米国株との比較でみればまだまだその資金流入額は限定的です。しかし世界的にみれば、米国からの資金シフト先としては、やはり欧州の存在感が大きいと言えるでしょう。

なお、国内投信市場で米国株ファンドの次に残高が大きいのはインド株ファンドですが、世界の株式ETFの資金フローでみれば、インド株ETFの資金フローは極めて限定的です。一方で、一定の存在感を示しているのが中華圏の株式ETFです。昨年来、中国株のパフォーマンスが回復傾向にある中、世界の投資家が中国株に注目していることが確認できます。また、日本株ETFも23年上期から24年上期にかけては、半年で100億ドル前後の資金流入が見られましたが、この1年ほどは日本株ETFへの資金フローはほぼ止まっています。このように、世界の投資家の資金フローを見ると、日本の投資信託の動向と類似している部分もあれば、違っている部分もあります。日本の投資信託市場では、なかなか人気が出ない欧州株、極めて人気が高いインド株など、世界の投資家の動向と比較しながら投資戦略を考えてみるのも一案と言えます。(執筆:BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介)

図表 世界の株式ETFにおける国・地域別の資金フロー(2021年～2025年上期)



出所:Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成